⑾　気密独立実験室
①　減損を認識した固定資産の概要
用途：教育研究施設
種類：建物、及び建物附属設備
場所：東京都目黒区大岡山２―12―１
期首帳簿価格：　6,341千円（建物1,578千円、建物附属設備4,763千円）
②　減損の認識に至った経緯
当該用地に新たに図書館を建設することから支障建物となり、平成21年５月22日をもって廃止・取壊しの決定を行いました。
③　減損額
損益計算書上に計上していない金額：建物1,549千円、建物附属設備4,675千円
④　回収可能サービス価額
使用価値相当額が０円であると判断し帳簿価額を０円まで減損した後、当事業年度中に除却処理を行いました。
⑿　サピアタワー
①　減損を認識した固定資産の概要
用途：会議施設
種類：建物附属設備
場所：東京都千代田区丸の内一丁目７番12号
期首帳簿価格：9,016千円（建物附属設備9,016千円）
②　減損の認識に至った経緯
平成21年12月31日をもって使用を停止する決定を行いました。
③　減損額
損益計算書上に計上していない金額：建物附属設備8,312千円
④　回収可能サービス価額
使用価値相当額が０円であると判断し帳簿価額を０円まで減損した後、当事業年度中に除却処理を行いました。
⒀　電話加入権
①　減損を認識した固定資産の概要
用途：電話回線
種類：電話加入権
場所：東京都目黒区大岡山２―10
期首帳簿価格：336千円
②　減損の認識に至った経緯
電話加入権の市場価格が著しく下落し、市場価格の回復の見込があると認められなかったため。
③　減損額
帳簿価額は回収可能サービス価額に比して低廉なため、減損額は計上されません。
④　回収可能サービス価額
使用価値相当額が正味売却価額と比較し高いため、回収可能サービス価額は使用価値相当額を採用しております。使用価値相当額は減価償却後再調達価額をもって算定しております。
⒁　樹木
①　減損を認識した固定資産の概要
用途：樹木
種類：構築物
場所：東京都目黒区大岡山２―12　82本
東京都目黒区大岡山２―10　51本
東京都大田区石川町１－１　63本
神奈川県横浜市緑区長津田馬ノ背4259番１　５本
東京都港区芝浦３―17―１　１本
茨城県東茨城郡大洗町大貫字角一257　４本
神奈川県川崎市高津区二子字東耕地424番１　３本
期首帳簿価格：2,378千円（構築物2,378千円）
②　減損の認識に至った経緯
工事の支障、立ち枯れ、並びに倒木のため不用決定を行いました。
③　減損額
損益計算書上に計上していない金額：構築物2,209千円
④　回収可能サービス価額
使用価値相当額が０円であると判断し帳簿価額を０円まで減損した後、当事業年度中に除却処理を行いました。

５．重要な債務負担行為

件名	契約金額	うち翌期以降支払額
すずかけ台Ｊ３棟整備等事業	4,841,358千円	4,841,358千円
附属図書館新営工事	2,148,300千円	1,187,340千円
エネルギー環境イノベーション棟新営工事	1,648,500千円	989,100千円

６．金融商品関係
⑴　金融商品の状況に関する事項
当法人は、資金運用については預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定しております。資金運用にあたっては国立大学法人法第35条が準用する独立行政法人法第47条の規程に基づき、公債及び金銭信託のみを保有しており株式等は保有しておりません。ただし、寄附により受け入れた社債を保有しております。
⑵　金融商品の時価等に関する事項
期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。
（単位：千円）

	貸借対照表計上額（＊１）	時価（＊１）	差額（＊１）
①　投資有価証券及び有価証券	5,808,305	5,867,499	59,194
満期保有目的の債券	4,997,305	5,056,499	59,194
その他の有価証券	810,999	810,999	―
②　現金及び預金	10,994,943	10,994,943	―
③　未払金	(8,527,864)	(8,527,864)	―

（＊１）　負債に計上されているものについては、（　）で示しております。
（注１）　金融商品の時価算定方法
①　投資有価証券及び有価証券
これらの時価について、取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。